

3 産学連携による実践型学習に おける取組

3. 産学連携による実践型学習における取組・・・2, 3年次生クラスを取組

1. 社会人基礎力の育成手法について

(1) 教育プログラムの設計

①教育目標・位置付け

本事業は、本学の建学の精神に則り、事業全体の目標を掲げ、その達成を一挙に図ろうとはせず、1～3年次生の特性に応じて目標を二段階にブレイクダウンしており、このプログラムは、そのうちの第二段階のものにあたる。

◇第一段階（1年次生対象：「PBL 実践Ⅰ」）の目標

明確なキャリア意識を持ち、精神的内面から支えられた社会人基礎力を自ら高め（12要素のうち6要素以上の事後他者評価が社会人基礎力レベル評価基準のレベル2以上）、キャリア意識に沿った学習が自主的にできるようになる。

◇第二段階（第一段階をクリアした2～3年次生対象）の目標

- ・2年次生（「PBL 実践Ⅱ」）：上級生である3年次生と組んだチームで課題に挑戦しながら、フォロワーシップに関連する社会人基礎力（傾聴力）が発揮できる（事後他者評価が社会人基礎力レベル評価基準のレベル3）。
- ・3年次生（「PBL 実践Ⅲ」）：下級生である2年次生と組んだチームで課題に挑戦しながら、リーダーシップに関連する社会人基礎力（問題発見力、発信力、働きかけ力）が発揮できる（事後他者評価が社会人基礎力レベル評価基準のレベル3）。

本事業のベースとなった「課題解決力実践」（正規授業科目）はシラバスに明確に、「大学で学ぶ専門知識と社会人基礎力（アクション・シンキング・チームワーク）とを相互に関連させながらそれらをスパイラル的に高め、強化する」ことをめざすことを記載しているが、今回は正規科目ではなく教育プログラムとしての認定になる。

②プログラム形態

企業から提示された課題に3年次生（リーダー）と2年次生（フォロワー）がチームで取組む実践的 PBL 型学習を行う。また、企業からの課題に直接取組まない（職業観と社会の仕組みとフィールドワークの前準備）1年次生 PBL 型学習を段階的に組み合わせた二段階方式実践的 PBL 型学習を行う。

③企業等から与えられる課題

i) 日本アイ・ビー・エム株式会社

- ・事業概要：情報処理／コンピュータなど
- ・課題内容：「5年後の大学生活はどのように変わっているべきで、それに対して IBM としてどのようなご提案・サービスを提供すべきか？」

◇課題提供企業からのメッセージ

IBM という会社は、「お客様の成功に必要な innovation(変革)をご支援する」ということを最大のミッションとして掲げております。それを実行に移すためには、お客様の今後の中長期的計画・動向などをいち早く察し、それをご支援する

提案をしていかなければなりません。教員・職員の視点で物事を考えることが多い IBM ですが、大学のお客様、つまり IBM のお客様のお客様である学生からの視点で、5年後の大学生活はどのように変わっているべきで、それに対して IBM はどのようなご提案・サービスを提供すべきか？ということに関し、是非考え出していただけたらと思います。

◇大学側の狙い

自分自身の近い将来を学生にイメージさせ、そこから今のあるべき自分に戻って、それと今の自分とのギャップに気づかせ、新たなスタートを切るきっかけと意欲とを持たせることを狙っている。

たとえば、経営学部で開講されている「経営情報システム論」や「社会調査」で学んだスキル、経済学部で学ぶ「環境経済学」、コンピュータ理工学部で学ぶ「情報化社会論」などの知識が役立つかも知れない。しかし、課題解決にあたっては、特定のスキルや知識のみが役立つわけではなく、思わぬヒントが思わぬところに潜んでいるものである。全学部（経済学部、経営学部、法学部、外国語学部、文化学部、理学部、工学部、コンピュータ理工学部）の学生が対象になっており、特別な単独の科目の知識が役に立つこともあるであろうが、このテーマに関しては、むしろ、学部横断的な知識の融合が期待される。

ii) 小林工芸株式会社

- ・ 事業概要：フラワー関連商品の製造販売
- ・ 課題内容：「新商品をブランドにもっていくための戦略と実践

◇課題提供企業からのメッセージ

小林工芸は、フラワー関連商品の製造販売を目的として設立いたしました。主なものとしては、「誰でも簡単にフラワーアレンジメントが生けられる教材」と「西陣で織られた織物で作ったブーケホルダー」が有ります。教材としては、10～20代向けアイデア商品（子供用教育教材、シニヤ用フラワー教材も検討しながら）の新商品としての確立を目指しています。また、ブーケホルダーとしては、結婚用高級ブーケ（贈答品も含めて）としてのブランド化をする必要があります。この両方の商品戦略と実践及び市場分析をしていただきたいと思います。

◇大学側の狙い

大学で学んでいる、たとえば、経営学部で開講されている「マーケティング・リサーチ」や「経営戦略論」、法学部で学ぶことのできる「知的財産法」などのスキルや知識が直接役立ちやすい課題であり、学生の学習意欲や課題に対する意欲もわきやすい課題である。しかし、専門知識に加え、学生の若いセンスそのものが重要なポイントでもあり、関連した専門知識を学んだ学生がグループ内にいれば、たとえ関連した専門知識に乏しくても、若者のセンスが一層活かされるであろう。

iii) 株式会社ベネッセコーポレーション

- ・事業概要：教育・出版業
- ・課題内容：『社会人基礎力』を身につけるプログラム開発

◇課題提供企業からのメッセージ

(株)ベネッセコーポレーションは、「教育」「語学」「生活」「福祉」の4つの事業領域において商品・サービスを提供しています。教育事業では、小学生から高校生を対象とした進研ゼミや、高校で実施される進研模試などを中心に、学校外教育および学校や先生の支援を行っていますが、大学・大学生支援事業開発部では、大学生の基礎学力支援やキャリア教育支援をはじめ入学前から卒業まで、教育的な視点で大学生の成長をバックアップしています。

今回は社会人基礎力をテーマに授業を展開し、その中でPDCAサイクルを回しながら、学生のみなさんが自ら考え行動できるような人材へ成長されることを期待しています。

◇大学側の狙い

教育の問題に取り組むことになるので、教員免許を採るための教職課程の科目、たとえば、「教育原理」、「教育の方法と技術」、「教育心理学」など多くの科目が直接関連することになる。しかし、それだけではなく、他の専門科目、たとえば、「経営学」や「心理学」なども密接に関連している。自身が学習したことが役に立つと、課題への取り組みや勉学への学生のモチベーションが一気に高まる。

④プログラム構成

プログラムの構成はクラス毎に若干異なるが、ここではベネッセコーポレーションクラスの例を以下に掲げる。

日程	授業中の活動（または授業外の自主活動）	育成する能力要素
10月16日	オリエンテーション 課題提供企業来訪による課題解説及び 質疑応答	課題発見力、計画力、柔軟性、 状況把握力
10月23日	ゴールセッティングシート記入&授業終了 前にゴールセッティングについてどうだっ たか共有は毎週必須 役割分担(リーダー及びフォロワー、書記、 タイムキーパー、調査内容別チーム分け) 今後の連絡網について確認 授業を受ける目的と目標のゴールの共有 タイムラインの決定 次回までに行う調査作業確認	計画性、創造力、傾聴力、 柔軟性、状況把握力、規律 性
10月30日	チーム別、課題について調査してきた内容発 表、情報共有 Action チーム→大学、専門学校における社 会人基礎力の調査 Thinking チーム→学士力について調査 TeamWork チーム→学生へのアンケート作 成・全員で内容について話し合う アンケート内容確定 次回までに誰が何名のアンケートを取って くるか確認	主体性、計画力、規律性、 傾聴力、課題発見力
11月4日	調査内容各チーム発表(2人ペア×4) 各個人で社会人基礎力を付けるための授業 シラバス 15回分の暫定版を考えてくる 次回発表と内容についてブレインストーミ ング	課題発見力、計画力、発信 力、傾聴力、規律性、創造 性、主体性
11月6日	アイスブレーキング(この一週間で一番心に 残っていること) 本日のゴールセッティングシート記入 先週からの宿題発表(2人ペア×4) 社会人基礎力を付けるための授業シラバス 15回分の暫定版を考えてくる	主体性、計画力、発信力、 傾聴力、規律性

11月13日	<p>社会人基礎力を付けるための授業シラバス 15回分の暫定版の発表 (ゲストスピーカーについて調査発表含む) 来週 11/20 中間発表について (時間が不足しているため再度全員で集合の ための調整) →11/19 に決定</p>	<p>主体性、状況把握力、発信 力、傾聴力、規律性、情報 発信力、ストレスコントロール力</p>
11月20日	<p>企業担当者に来学頂き中間発表 アイスブレイクとして企業担当者にも参加 頂き図形伝達ゲームを体験 暫定版シラバス発表 企業担当者からアドバイスを頂く</p>	<p>主体性、働きかけ力、実行 力、計画力、発信力、傾聴 力、柔軟性、状況把握力、 規律性、ストレスコントロール力</p>
11月27日	<p>PBL I クラス中間プレゼンテーション プレゼンテーションへのアドバイス 来週 12/3 企業訪問に向けたミーティング 最終報告に向けたゴール設定の見直し修正 来週までにすることのすり合わせ</p>	<p>主体性、実行力、計画力、 発信力、傾聴力、状況把握 力、規律性、ストレスコントロール力</p>
12月4日	<p>企業訪問時、担当者から頂いたアドバイス確 認 ゴール再設定のためのミーティング 今後のスケジュールの確認 12/6 コンソーシアム京都での発表内容確認</p>	<p>主体性、状況把握力、発信 力、傾聴力、規律性、スト レスコントロール力</p>
12月11日	<p>ビジネスマナーとプレゼンテーション講習 今後のスケジュールすり合わせ作業</p>	<p>発信力、傾聴力、規律性、 状況把握力、実行力</p>
12月18日	<p>学内アンケートの内容確認後、アンケート作 成作業 アンケート実施に向けた予定作成 最終報告へのアンケート反映の方法につい てミーティング</p>	<p>主体性、働きかけ力、実行 力、課題発見力、計画力、 創造力、発信力、傾聴力、 柔軟性、状況把握力、規律 性</p>
1月8日	<p>最終報告会発表準備</p>	<p>主体性、働きかけ力、実行 力、課題発見力、計画力、 創造力、発信力、傾聴力、 柔軟性、状況把握力、規律 性、ストレスコントロール力</p>
1月15日	<p>最終報告会</p>	<p>主体性、実行力、創造力、 発信力、状況把握力、規律 性、ストレスコントロール力、柔軟性</p>

⑤チーム編成

○学生の募集方法

1年次生から3年次生の学生対象に履修ガイダンスにて案内し、募集説明会を2日間行い、このプログラムの狙いと仕組み、授業日程を説明し募集活動を行った。2・3年次生は提示された企業課題ごとのチーム別に受付を行い、希望によりマッチングを行なった。

○参加学生の所属（学部・学科）及び人数

学部	2年次生	3年次生	計
経済学部	3名		3名
経営学部	3名	4名	7名
法学部	1名	5名	6名
外国語学部	2名	1名	3名
計	9名	10名	19名

○メンバー構成、役割分担等

日本IBMチーム：担当教員1名、学生5名（3年次生2名、2年次生3名）
小林工芸チーム：担当教員1名、学生6名（3年次生2名、2年次生4名）
ベネッセコーポレーションチーム
：担当教員1名、学生8名（3年次生6名、2年次生2名）

⑥教職員と企業人等の役割分担

前述の3. プログラムの実施体制の項(P.12)で役割分担と実施体制を記述しているので、ここでは本プログラムの推進に係る重要な全スタッフによる第一回PBL教育事業実施推進全体会議を簡単に紹介する。同会議は9月のプログラムスタート時期に事業の全体像の把握(計画～実行～検証～改善策(PDCA))と理解・認識並びに、教職員と企業人・評価委員等の役割分担を明確にするため、スタッフには負担をかけたが、時間をかけ周到なる内容で実施した。その内容は以下のとおりである。

出席者は、近畿経済産業局関係者をはじめ、課題提供企業関係者さらに第三者評価委員と普及推進委員をお願いした京都商工会議所や京都経営者協会等。本学からはキャリア教育研究センター長をはじめ、ヘッド教員の後藤経営学部教授他PBL授業担当者が出席した。会議では、本学のキャリア教育の取り組みと課題解決力実践・PBL教育の説明、今回採択された「二段階方式実践的PBL型教育」の事業内容の詳細な説明を行なった。近畿経済産業局からは本事業の採択のポイントと留意事項等についての説明がなされた。その後、全体の意見交換が行われ、課題提供企業、第三者評価委員会、社会人基礎力普及推進委員会の協力を得て、今後本事業を推進(役割分担を含む)することが確認された。

その後、同実施推進全体会議は、1月と2月にも開催され、事業終了の3月時には次年度の改善策を中心とした第四回PBL教育事業実施推進全体会議の実施を予定している。

(2) プログラムの運用

①それぞれの授業や活動等における工夫

i) 目的意識とプログラムの進め方

a) ゴールの明確化と目的意識

プログラム初期にマインドマップを使用し自己理解を深めさせ、授業を通じて得たいことを明確にさせ最終ゴールの確認のためクラス共有を行った。また毎回、ゴールセッティングシートを利用して、社会人基礎力 12 要素のうち、意識して行動する要素を授業時間内に記入し、授業終了時に達成度の確認を行った。

b) プログラムの進め方の確認と修正

クラスとして進め方・目的・目標の設定、PDCAサイクルをまわすように意識させると共に常時、活動進捗状況把握のためのタイムスケジュールの確認と修正のための議事録作成をさせた。学生間の視線合わせを行い、コンサルティングのビジネスゲームという発想を伝え、必要に応じて中間報告など報告後に今後の進め方について再設定することにより最終報告に向けたゴールセッティングとプログラム作りのポイントを伝えた。

ii) 役割分担とコミュニケーションによる授業の活性化

a) グループワーク

グループワーク中心の授業展開を行い、あくまでも主体的に、受身の授業ではないという認識を持たせた。

b) 役割分担

メンター、メンティーの関係について話し合い、授業毎にリーダー・発表者・記録係・フォロワーの経験を積ませることによりクラス内の役割分担を行いそれによる授業の活性化を行い学生の能力を引き出すことをめざした。

c) コーチングとファシリテーション

授業展開には、コーチングやファシリテーションの手法を活用した。

iii) 授業外時間での工夫

a) 企業担当者と学生の意見交換

企業担当者と学生の直接の意図確認を行わせ、企業担当者と学生の意見交換が密に取れる工夫を行った。また、企業担当者からの審査・講評・アドバイスによる競争意欲の向上、困難体験の設定による成長を実感させた。

b) 授業外ミーティング

情報共有と授業外のミーティングの工夫としてメーリングリスト・グループウェアを使用したスムーズでタイムリーな意見交換を行った。また、授業時間の制限を踏まえ、各自(もしくは複数人)による情報収集担当と翌週の発表共有を行い集

約しデータ化を進めると共に時間不足によるミーティング・作業のための日程調整を促し、図書館を使用、図書館書籍の有効活用をさせた。

iv) IT・ビジネスマナースキルの提供と専門知識の活用

a) ITの活用

わかりやすい説明のためのパワーポイント・プレゼン講習を行うと共に、ITを駆使する工夫として情報教室を使用し、複数人で平行な資料作りを行い時間の有効使用を行った。またITリテラシーで優位な学生が主体的に積極的に指導する行動を促し不得意だった学生にもアンケート集計・見やすい資料作りの努力を体験させた。

b) ビジネスマナーレクチャーの実施

フィールドワーク調査の前にビジネスマナーに関するレクチャーを実施した。これは、各クラスで担当教員主導で行った。名刺交換の仕方や敬語の使い方などを行った。

c) 専門知識の活用

各学科の専門知識の活用としてポジティブシンキング、ラテラルシンキングなど専門学科による知識の応用を行った。

v) 情報収集した社会人基礎力養成プログラムの疑似体験

社会人基礎力が身に付くと想定されるプログラム・ワークショップの情報収集をした上で具体的に社会人基礎力が身に付くプログラムの実体験(ピンポンディベート・ディベート・グループディスカッション)を体験させた。

vi) 評価基準への対応

最終プレゼンでは、社会人基礎力グランプリの評価基準に沿ったプレゼンテーション対応を行った。その結果、プレゼンテーションの内容については、企業からの課題解決に関する部分とそれを通じてどう社会人基礎力が伸びたのかに関する部分が半々ぐらいになった。結果として、学生の成長に関する部分を学生がお互いに話し合うことで、お互いに向き合い、学びが深まったように思う。

②支援員(教職員、企業人等)によるファシリテート

i) 授業ファシリテーションの工夫

a) アイスブレイク

毎授業開始時にアイスブレイクを行いスムーズな授業導入を心がけた。アイスブレイクの内容としては、授業の初めに①この1週間で楽しかったことや、②本日の授業で得たいことを1分間プレゼンしてもらうことなどを行った。

- b) 授業でのゴールセッティング
毎授業開始時でのゴールセッティングシートの作成と、そのことについて授業終了時に意見交換を行った。ゴールセッティングシートには、その時間で得たいこと、及びその時間で得たこと、そして、社会人基礎力の12の要素についての自己採点（5点満点中）を記載してもらった。
 - c) 遅刻、欠席をなくすための工夫
今回の授業は木曜日の朝1限目の授業であったこともあり、はじめは遅刻・欠席者が相次いだ。そこで、遅刻・欠席をなくすべく、お互いに話し合わせルール決めをした。その結果、朝7時に起きたらクラスのメーリングリストにその旨を流し、7時5分になってもメールが流れない人に対して、電話担当が電話をして起こすということにした。また、それでも遅れてきた学生に対しては、他の人に缶コーヒーを振る舞うなどのペナルティーを科すこともありうるということで合意をとった。
 - d) チーム内の役割分担とモチベーションの管理
チーム内において、リーダーとフォロワーの役割分担を早い時点で行い、作業へのスムーズな取り組みを促した。また、学生のモチベーションの高低差による不満・不安・疑問の解消のため話し合いの場を設定し、学生が自分達で問題解決できるようにサポートした。
 - e) 学生からのリクエストをきちんと受け止める
授業外で集まるための教室の確保や企業担当者への追加訪問など、学生から出たリクエストに対して、きちんと耳を傾け、関係者と話し合っ、可能な範囲で実現させるべく対応した。また、授業に対して不満や問題がある学生に対しては、個別に面談し、じっくりと話し合うことで、不満の解消や問題解決へと導いた。
 - f) フィールドワーク時の対応と振り返り
フィールドワークとして企業訪問した際に、企業担当者への質疑応答や話のまとめをファシリテートした。また、企業訪問後に学生に振り返りをさせ、得たことや学んだことを明確にさせた。
- ii) 学生にマーケティングの視点を持たせる
 - a) 企業側の視点を持たせる工夫
企業の展示フェアにおいて、学生にその会社の社員として参加させ、企業側の視点を持たせ、企業の求めているものを明確化させた。
 - b) 市場調査のための知識と手法を提示する
市場調査のための知識を提供すると共に、KJ法を活用して市場調査アイデアのグループ分けを行わせ、市場調査を円滑に実施できるよう、サポートした。

iii) 関係者間の協力体制を作る

a) 学生同士の連絡、交流の促進

授業の最初に、お互いに連絡が取り合えるよう連絡網を作成し、クラス全員で親睦を深める目的で食事会などの懇親会を行った。

b) 教員同士の協力体制

毎授業後に、教員同士の振り返りのミーティングを行い、課題の共有や進め方の確認を行った。それによって、教員同士の協力体制を築くことができた。

c) 企業担当者と教員の協力体制

教員と企業担当者として、随時メールや携帯電話でやり取りを行い、密な連携による協力体制を築くことができた。

③支援員の育成（指導）力向上のための工夫

i) ファシリテーションの能力向上のための研修実施

支援員がマインドマップを活用できることを目的として、支援員に対してマインドマップ研修を実施した。また、このマインドマップは、学生の自己理解を深めさせ、授業を通じて得たいことを明確にさせるために活用した。

【プログラム内容】

- ・マインドマップの概念説明
- ・その効果
- ・必要となる準備物
- ・描くときのポイント
- ・応用範囲
- ・実践（実際に描いてみる）
- ・振り返り（プログラム化する際の留意点の洗い出し）

ii) 毎授業後の振り返りと話し合い

毎授業後は各教員と職員とが必ず集合し、授業の進捗や授業を行う中で気になったこと、現時点での問題点を共有し、解決方法について話し合った。この時間を持つことで、お互いの教え方についてのノウハウを共有することができ、また育成力の向上に繋がった。

iii) OJTによる育成力向上

新たなアイデアや授業方法に関しては、実際に授業で導入し、試行錯誤する中で模索を図った。また、そこで得た内容について、授業後の振り返りの場などで共有した。

(3) 育成手法の反省事項と改善策

① 反省事項

今回は、企業担当者と学生の接点を、大まかにいって①課題説明会、②中間報告、③フィールドワーク、④最終報告と4回設定していたが、結果として少なかったように思う。このことは、実際に学生の授業後アンケートにも記載されていた。特に最終報告会においては、20分と限られた時間を使用したのが、別途企業担当者へ1時間程度の発表をしたいという要望も強く見られた。結果として、企業担当者の意向やゴールイメージと学生の進め方とのギャップが見られることとなった。これは、今後改善していく必要があると思われる。

② 改善策

来年度は、課題設定の段階から、企業担当者と担当教職員との話し合いをじっくり行い、まずは、教職員と企業担当者との協力体制を築ければなお、効果的と思われる。そして、その中で、企業担当者が学生と接点を取っていただくことの重要性をご理解いただき、企業担当者と学生との接点を、各クラスの状況に応じて柔軟に増やすことができるよう工夫・改善が必要である。

2. 社会人基礎力の評価手法について

(1) レベル評価基準

この取組にあつては、社会人基礎力の評価は次の二つの側面からなされた。

したがって、測定方法やレベル評価基準は両側面によってそれぞれ異なっている。

①外面的評価：「〇〇できる。」という見える部分の面接やモニタリングによる評価

この取組のレベル評価基準には、このような評価は初めての経験でもあり、今回は、経済産業省のもの（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、28—29頁。）をそのまま用いた（巻末資料1）。

②内面的評価：「〇〇できる。」能力を内面から支えている知的・精神的側面の検査による評価

社会人基礎力三つの力のうち「考え抜く力」を内面から支えている知的側面（頭の働かせ方）をCRATTI（適性科学研究センター）で測定し、測定値を偏差値（平均=50、標準偏差=10）であらわす。また、社会人基礎力三つの力のうち「前に踏み出す力」と「チームで働く力」とを内面から支えている精神的側面（精神的タフネス）はPC-TAOK（適性科学研究センター）で測定し、測定値を偏差値（平均=50、標準偏差=10）であらわす。なお、両検査についてのこれ以上の内容については、企業秘密に触れるため明らかにすることはできない。

(2) 評価実施要領

すでに述べたように、この取組にあつては、社会人基礎力の評価は外面・内面の二つの側面からなされ、実施要領もそれぞれ異なっている。

①外面的評価

i) 自己評価

○評価の回数・時期

事前、事中、事後の3回実施された。実施時期については以下の通りである。

- ・事前自己評価：平成20年10月12日（全21講中第2講目）
- ・事中自己評価：平成20年11月20日（全21講中第13講目）
- ・事後自己評価：平成21年1月15日（全21講中第20講目）

○学生が自己評価に慣れるために行った工夫

次のような工夫がなされた。自己評価についての学生の戸惑いは見られず、実施された下記の工夫に効果があったものと思われる。

- ・当初のオリエンテーション時に、社会人基礎力レベル評価基準表（巻末資料1）を配布し、説明を徹底するとともに、クリアファイルに入れて常に持ち歩くことを指示した。
- ・毎授業時間の開始に当たり社会人基礎力ゴールセッティングシート（巻末資料2-①）を記入させ、授業終了時に振り返り（資料2-②）を行う。

ii) 他者評価

○評価者

この取組は次の4チームで実施され、それぞれのチームに1名の担当者をつけた。

◇企業とは連携しないチーム（1年次生）

- ・1年次生チーム（9名）

チーム担当者：コーオプ教育スタッフ

◇企業と連携するチーム（2・3年次生）

- ・IBMチーム（5名）

チーム担当者：専任教員

企業側担当者：営業担当中堅社員

- ・小林工芸チーム（6名）

チーム担当者：コーオプ教育スタッフ

企業側担当者：社長

- ・ベネッセチーム（8名）

チーム担当者：コーオプ教育スタッフ

企業側担当者：営業担当中堅社員

○評価の回数・時期

事中、事後の2回実施された。実施時期については以下の通りである。

- ・事中他者評価：中間報告時

1年次生チーム：平成20年11月27日 全21講中第14講目

IBMチーム：平成20年11月27日 全21講中第14講目

小林工芸チーム：平成20年12月4日 全21講中第15講目

ベネッセチーム：平成20年11月20日 全21講中第13講目

- ・事後他者評価

1年次生チーム：最終報告会時（平成21年1月15日 全21講中第20講目）

その他のチーム：成果報告会時（平成21年2月7日）

○評価の方法

- ・チーム担当者による評価は、授業時や授業時外でみられる学生の日常の行動事実を対象にして、モニタリングで実施した。
- ・企業側担当者の場合、当初は個人面談による評価が予定されていた。しかし、面談に必要な時間を調整するのが困難で、後の「適切かつ効果的な評価の実施のための工夫」で記すような工夫をして、90分間のグループ単位モニタリングに切り換えた。

○評価者の評価力向上のための工夫

社会人基礎力育成・評価に関する情報共有と評価者の評価力向上のために、事前に、全関係者（企業側担当者、チーム担当者、事務局スタッフ、第三者評価委員、社会人基礎力普及推進委員、近畿経済産業局担当メンバー）による全体会議

を開催した。その会議で、この取組の概要を説明するとともに、「社会人基礎力育成のための評価システムと実施日程・手順」（巻末資料3）と題し、ファイルに綴じた保存用資料を配布して評価に関する解説をした。

企業側担当者は、他者評価や自己評価についての企業内での経験があるためか、特別の戸惑いを感じたりした様子も見られず、評価はスムーズに実施された。また、評価に関する特別な質問もなされなかった。

○適切かつ効率的な評価の実施のための工夫

企業側担当者による他者評価は、当初、個人面談により実施することを予定にしていた。しかし、多忙な企業側担当者と学生（学生も意外に時間がとりにくい。）との間で、面談時間の調整が非常に困難であることがわかった。そこで、企業側担当者の来学が決まっている中間報告を活用し、チームメンバーが少人数（5～8名）で、メンバーの行動が一覧できることもあり、チーム単位のモニタリングにすることにした。モニタリングの効率化を図り、質を向上させるために、次のような工夫をした。

- ・中間報告の主な目的は、課題解決の妥当性や程度を企業側担当者にみてもらい、アドバイスを受けることにある。したがって、他の課題に取り組んでいるチームと一堂に会して報告会を実施するメリットは少ない。そこで、中間報告会はチーム別に分かれて実施し、90分の全授業時間をモニタリングの時間に当てた。企業側担当者は、90分にわたって、学生のチームプレーを観察できることになる。
- ・企業側担当者が個々の学生を明確に識別できるように、胸には名札を付け、席のテーブルにも大きな名札を置いた。

②内面的評価

全員を一つの教室に集め、CRATTIおよびPC-TAOK（何れも適性科学センター）を実施した。

- ・ 事前評価：平成20年10月9日（全21講中第1講目） 90分
- ・ 事後評価：平成21年1月10日（全21講中第19講目） 90分

実施後は、検査用紙を回収し、適性科学センターに郵送した。約10日程後に、測定結果とその解釈とが返送されてきた。

(3) 成長の記録、評価結果のフィードバック方法

①プログレスシート

○様式

当初は、経済産業省のモデル（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、47—48頁。）に、上記の内面的評価の結果を追加記載する予定でいた。しかし、たとえば、知能指数を本人に明かさないと同様に、偏差値で表された検査結果は本人に知らせない方がよいと判断した。そこで、内面的評価結果の追加記載を断念し、このようなシートの作成は初めての経験でもあり、今回

は、経済産業省のモデルをそのままプロGRESSシートとして用いることにした(巻末資料4-①②③④)。

○記載の流れ及び記載要領、フィードバックの方法(タイミング・内容)

プロGRESSシートは受講生のあゆみと成長の記録である。したがって、この取組が終了し、事前・事中・事後評価シートなどすべての記録が揃った段階でチーム担当者が記載する。各項目の記載内容は以下の通りである。

(経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、48頁)

◇プロジェクトの活動内容、目標

事前評価シートにある同じ項目を転載する。

◇自己評価の履歴

事後評価シートに、学生が授業全体を振り返って、自身の成長について記したものを転載する。

◇活用した(学んだ)専門知識やスキル等

事後評価シートの同じ項目を転載する。

◇(チームとしての)活動成果

事後評価シートの同じ項目を転載する。

◇プロジェクトでの役割・担当としての活動

事後評価シートの同じ項目を転載する。

◇他者(教員・外部評価者<企業人等>)評価の履歴

・中間レベル、事後レベルの欄

事中、事後評価シートにある「教員と外部評価者の総合評価」から転載する。

・具体的行動事実の欄

事中、事後評価シートにある教員または外部評価者のコメントを活用して記載する。

○プロGRESSシート活用の可能性とその具体的工夫

エントリーシートに、この取組を受講して終了したことや、その「あゆみと成長の記録」があることを書き、その内容を自己PRなどに活用する。

・面接時にプロGRESSシートを活用する。

・終了証書を受講生に手渡し、就職活動時にプロGRESSシートとともに携帯し活用する。

就職活動のみならず、社会人基礎力の学内普及に活用する。たとえば、プロGRESSシートに記載されている「活用した(学んだ)専門知識やスキル」に関連した科目としてあげられた科目担当者を訪ねて、その科目が如何に役立ったかをプロGRESSシートを用いて説明する。

○学生が記載に慣れるための工夫

予め、事例を示しておく。今回は初めての試みなので、経済産業省編著『今日

から始める社会人基礎力の育成と評価』(28～31頁)を活用した。
授業開始時にゴールセッティングシート(巻末資料2-①)を配布し、それに、その時間の行動目標を記入する。そして、終了時に振り返り(巻末資料2-②)を行い、その結果をゴールセッティングシートに記入する。上記事例を頭に置いて、これを毎時間繰り返すことにより、自己評価にも慣れ、自身の行動を振り返り、文章化する力も向上する。

②評価シート

○様式

このような評価は初めての経験であり、今回は、経済産業省の様式(経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、44～46頁)をそのまま用いることにした(巻末資料5～8)。

○記載の流れ及び記載要領、フィードバックの方法(タイミング・内容)

◇事前評価シート

- ・事前評価シートを、提出1週間前に、記入方法が例示してある経済産業省の様式(経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、44頁。)のコピーを付して学生に配布する。
- ・学生は、記入方法の例示にしたがって事前評価シートの学生本人記入欄に記入して、1週間後の授業で担当者に手渡す。
- ・事前評価シートを受け取った担当者は、教員・講師からの講評・アドバイス欄に記入したのち、一部のコピーを残して、原本を次週の授業で返却する。
(例)自分で意識して行動すれば、きっと力がつきますよ。

◇中間評価シート

- ・企業側担当者が来学する前々週に、中間評価シートを、記入方法が例示してある経済産業省の様式(経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、45頁。)のコピーを付して学生に配布する。
- ・学生は、記入方法の例示にしたがって中間評価シートの学生本人記入欄に記入して、1週間後の授業で担当者に手渡す。
- ・担当者は、次週の中間報告会に参加すべく来学する企業側担当者に、参考資料として手渡すためのコピーを1部作成する。
- ・中間報告会当日に、来学した企業側担当者に、教員記入欄は未記入のままになっている上記コピーを手渡す。社会人基礎力レベル評価基準については、当初の全体会議で説明済みであり、かつ、社会人基礎力レベル評価基準表もすでに手渡してあるが、念のために、社会人基礎力レベル評価基準表(経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、28～29頁。)も再度手渡す。
- ・企業側担当者は、チームの中間報告を聞き、質疑応答をしながら、チームメンバーの行動をモニタリングする(90分間)。
- ・企業側担当者はモニタリングした結果を持ち帰り、外部評価者記入欄に記入して、チーム担当者に速やかに郵送返却する。記入に当たっては、レベル評価の

結果だけではなく、評価根拠も記載する。

(例) 自分の意見を整理して、分かりやすく伝えられるようになるとよい。

- ・企業側担当者から中間評価を受け取ったチーム担当者は、受領後速やかに、学生の自己評価と企業側担当者の他者評価とを比較しながら教員記入欄に記入する。記入に当たっては、レベル評価の結果だけではなく、評価根拠も記載する。

(例) チーム内で、自分の意見を主張できるようになってきた。

- ・チーム担当者の記入完了後、1部コピーを残し、速やかに原本を学生に返却する。返却に当たっては、口頭でコメントしながら、学生のモチベーションを高める配慮をする。

(例) 社会人基礎力を育成するには、例えば次のように、何事もプラスに変換し、「褒める」ことが大切である。

- ・企業担当者のコメント：自分の意見を整理して、分かりやすく伝えられるようになるとよい。
- ・担当教員のコメント：チーム内で、自分の意見を主張できるようになってきた。
- ・返却時の口頭によるコメント：自分の意見を主張すらできなかったのに自分の意見を主張できるようになったことを強調し、褒める。

○学生が記載に慣れるための工夫

予め、事例を示しておく。今回は初めての試みなので、経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』（28～31頁）を活用した。

授業開始時にゴールセッティングシート（巻末資料2-①）を配布し、それに、その時間の行動目標を記入する。そして、終了時に振り返り（巻末資料2-②）を行い、その結果をゴールセッティングシートに記入する。上記事例を頭に置いて、これを毎時間繰り返すことにより、自己評価にも慣れ、自身の行動を振り返り、文章化する力も向上する。

③活動記録シート

○様式

このような評価は初めての経験であり、今回は、経済産業省の様式（経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、44頁。）をそのまま用いることにした（巻末資料9）。

○記載の流れ及び記載要領、フィードバックの方法（タイミング・内容）

活動記録シートは期間中次の2回提出させ、担当教員がコメントを付して次週に返却した。

- ・第1回目：全20講中第8講目（平成20年10月30日）
- ・第2回目：全20講中第14講目（平成20年11月27日）

担当教員は、学生本人が記入したシートを注意深くみて、プラス志向のコメント

を記して返す（シート上に、誰が何を記入するかについては巻末資料9参照）。

（例）力を発揮できたシーンを記憶にとどめ、そのシーンを常に意識しておれば、きっと本物になりますよ。

○学生が記載に慣れるための工夫

予め、事例を示しておく。今回は初めての試みなので、経済産業省編著『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』（28～31頁）を活用した。

授業開始時にゴールセッティングシート（巻末資料2-①）を配布し、それに、その時間の行動目標を記入する。そして、終了時に振り返り（巻末資料2-②）を行い、その結果をゴールセッティングシートに記入する。上記事例を頭に置いて、これを毎時間繰り返すことにより、自己評価にも慣れ、自身の行動を振り返り、文章化する力も向上する。

3. 授業や活動の具体的記録

	授業等 内容		
月日： 10月9日(木) 時限： 1 形態： 全体 場所： 5229 演習室	事前の適性検査を実施 10月16日から開始される授業に先立ち事前の適性検査を実施した。同検査は社会人基礎力評価システムの一環として、検査による客観的評価の導入を図るためのもので、社会人基礎力のうち、目に見える行動としての「シンキング」の奥にあって、目に見えない「頭の働かせ方」や目に見える行動としての「アクション」と「チームワーク」を支えている目に見えない「精神的タフネス」を客観的に検査(いずれも適性科学研究センター)するものである。来年1月には事後検査も実施することになっており、上記能力の事前と事後との測定値を比較して教育効果を測定する。このような内面の客観的検査を学生にフィードバックすることにより、自己評価と客観的評価とが噛み合って相乗効果を生み「社会人基礎力」のスパイラル的向上を期待している。		
月日： 10月12日(日) 時限： 1~4 形態： 全体 場所： 5229 演習室	ファーストミーティングとマインドマップ研修の実施 日常の授業から解放された日曜日の終日、ファーストミーティングとマインドマップ研修を実施した。ファーストミーティングでは、担当教員やスタッフ紹介の後、ヘッド教員の後藤文彦経営学部教授から、今回の「二段階方式実践的PBL型教育」を通じて、学生諸君が「社会人基礎力」の必要性を認識し、自ら「社会人基礎力」を向上させることによって、将来はフォロワーとしても、リーダーとしても、社会で役立つ人材になってほしい、と挨拶があった。マインドマップは、発想を広げる拡散思考と結論を導き出す収束思考が一枚の紙の上で可能になるもので、思考回路を活性化させ、社会人基礎力にある「考え抜く力」を実践する方法として今回の研修に採用した。研修では、手順説明やウォーミングアップを経て、実践が行なわれた。実践編の1年次生には「卒業までの大学生活を描いてみよう」、2・3年次生には「5年後の自分を描いてみよう」というテーマのもとに研修が進められた。		
月日： 10月16日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	「二段階方式実践的PBL型授業」の開始 課題説明課題解決力実践「二段階方式実践的PBL型授業」が始まった。当日は、課題提供企業の方々も出席いただき、課題の趣旨説明が行なわれた。受講生は、1年次生9名、2年次生9名、3年次生10名の計28名で、在籍学部も経済学部、経営学部、法学部、外国語学部と多彩なものとなった。クラスは、1年次生1クラス、2~3年次生は、企業からの提供課題ごとに3クラスに分れ、計4クラス編成となった。「二段階方式実践的PBL型」授業は、1~3年次生の特性に応じて、目標を二段階にブレークダウンしており、第一段階(1年次生対象)では、企業とは連携せず、明確なキャリア意識を持たせ、内面から支えられた社会人基礎力の向上にウエイトを置いている。2~3年次生の第二段階で、産学連携による実践型学習プログラムにより、フォロワーシップとリーダーシップに関連する社会人基礎力の養成を目指している。企業とは連携しない1年次生は、キャリアインタビューを中心に授業が進められていく。2~3年次生は、企業からの提供課題ごとに3クラスに分れ、学生各自から自己紹介と当該課題を志望した動機が述べられた。次いで、企業からは、提供課題の趣旨説明と学生との質疑応答が行なわれ、初日の授業を終えた。なお、企業からの提供課題は次のとおり。 <input type="radio"/> 日本アイ・ビー・エム株式会社 「5年後の大学生活はどのように変わっているべきで、それに対してIBMとしてどのような提案・サービスを提供すべきか？」 <input type="radio"/> 小林工芸株式会社 「新商品をブランドにもっていくための戦略と実践」 <input type="radio"/> 株式会社ベネッセコーポレーション 「「社会人基礎力」を身につけるプログラム開発」		
月日： 10月23日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	クラス別授業		
	【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク (この1週間で楽しかったこと) ・この時間の目標 ・マインドマップを活用して最終報告までの計画表(ガントチャート)作成 ・この時間の目標達成度 	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク (この1週間で楽しかったこと) ・PBL(課題解決力実践) 小林工芸クラスを通じて得たいこと ・今後の進め方について(目的・目標の設定、PDCAサイクル) ・役割分担と今後のスケジュール ・連絡網の作成 	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク (先週から今週にかけてあったこと) ・役割分担 ・連絡網について確認 ・授業を受ける目的と目標のゴールの共有 ・タイムラインの決定 ・来週までにやってくることの確認

授業等内容							
月日：10月30日(木) 時限：1 形態：全体/クラス別 場所：5229 演習室他	<p>全体授業 適性検査のフィードバック</p> <p>クラス授業に先立ち、10月9日に実施された「頭の働かせ方」と「精神的タフネス」とに関する検査結果を受講生全員にフィードバック。「頭の働かせ方」は社会人基礎力のシンキングと対応している。また、「精神的タフネス」は、同じく、アクションとチームワークとに対応している。検査結果の解釈の仕方と活用方法とについて解説したのち、受講生の平均的姿が示された。</p> <p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】</th> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】</th> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク(この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・この1週間の計画と実績との振り返り ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的行動計画の策定 ・この時間の振り返り(この時間のはじめに設定したゴールの達成度確認) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:この1週間で楽しかったこと) ・コンサルティングのビジネスゲームという発想の確認 ・メンター・メンティーの関係の確認 ・役割分担(リーダー、サブリーダー、書記)の確認 ・目的・目標の設定の確認 ・PDCAサイクルの確認 ・遅刻・欠席ゼロプロジェクトの確認 ・市場分析の手法の紹介 ・今後の進め方とスケジュール(中間発表)について ・クラス連絡網の作成 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(先週から今週にかけて楽しかったこと・嬉しかったこと) ・チーム別、課題について調査してきた内容の発表、情報共有 ACTION チーム → 大学、専門学校における社会人基礎力の調査 THINKING チーム → 学力について調査 TEAMWORK チーム → 学生へのアンケート作成・全員で内容について話し合う ・アンケート内容確定 ・次回までに誰が何名のアンケートを取ってくるか確認 ・来週の親睦会について </td> </tr> </tbody> </table>	【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク(この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・この1週間の計画と実績との振り返り ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的行動計画の策定 ・この時間の振り返り(この時間のはじめに設定したゴールの達成度確認) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:この1週間で楽しかったこと) ・コンサルティングのビジネスゲームという発想の確認 ・メンター・メンティーの関係の確認 ・役割分担(リーダー、サブリーダー、書記)の確認 ・目的・目標の設定の確認 ・PDCAサイクルの確認 ・遅刻・欠席ゼロプロジェクトの確認 ・市場分析の手法の紹介 ・今後の進め方とスケジュール(中間発表)について ・クラス連絡網の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(先週から今週にかけて楽しかったこと・嬉しかったこと) ・チーム別、課題について調査してきた内容の発表、情報共有 ACTION チーム → 大学、専門学校における社会人基礎力の調査 THINKING チーム → 学力について調査 TEAMWORK チーム → 学生へのアンケート作成・全員で内容について話し合う ・アンケート内容確定 ・次回までに誰が何名のアンケートを取ってくるか確認 ・来週の親睦会について
【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】					
<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク(この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・この1週間の計画と実績との振り返り ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的行動計画の策定 ・この時間の振り返り(この時間のはじめに設定したゴールの達成度確認) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:この1週間で楽しかったこと) ・コンサルティングのビジネスゲームという発想の確認 ・メンター・メンティーの関係の確認 ・役割分担(リーダー、サブリーダー、書記)の確認 ・目的・目標の設定の確認 ・PDCAサイクルの確認 ・遅刻・欠席ゼロプロジェクトの確認 ・市場分析の手法の紹介 ・今後の進め方とスケジュール(中間発表)について ・クラス連絡網の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(先週から今週にかけて楽しかったこと・嬉しかったこと) ・チーム別、課題について調査してきた内容の発表、情報共有 ACTION チーム → 大学、専門学校における社会人基礎力の調査 THINKING チーム → 学力について調査 TEAMWORK チーム → 学生へのアンケート作成・全員で内容について話し合う ・アンケート内容確定 ・次回までに誰が何名のアンケートを取ってくるか確認 ・来週の親睦会について 					
月日：11月4日(火) 時限：3・4 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	<p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】</th> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】</th> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイクは中止:授業が始まる前にメンバーが自主的に集まってディスカッションしており、授業開始に当たってのウォーミングアップが不要だったため。 ・この時間のゴールセッティング ・計画と実績とのチェック ・中間報告までの計画の見直し ・課題解決のためのアイデア出し ・この時間の振り返り </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:私と学園祭について) ・イベントにてアンケートを取る日程の確定 ・アンケートの内容を考える ・フラワーアレンジメント、西陣織ブーケの市場分析 <ul style="list-style-type: none"> － 他社比較 － 市場の性格 － 自社の把握 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(自分を動物に例えると…その理由) ・アンケート集計 ・集計結果の共有 ・結果共有による方向性の見直し及びプログラム作りのポイントについて意見交換 ・具体案の洗い出し ・10月分活動記録シートの書き方について再広報 ・本日の振り返り </td> </tr> </tbody> </table>	【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイクは中止:授業が始まる前にメンバーが自主的に集まってディスカッションしており、授業開始に当たってのウォーミングアップが不要だったため。 ・この時間のゴールセッティング ・計画と実績とのチェック ・中間報告までの計画の見直し ・課題解決のためのアイデア出し ・この時間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:私と学園祭について) ・イベントにてアンケートを取る日程の確定 ・アンケートの内容を考える ・フラワーアレンジメント、西陣織ブーケの市場分析 <ul style="list-style-type: none"> － 他社比較 － 市場の性格 － 自社の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(自分を動物に例えると…その理由) ・アンケート集計 ・集計結果の共有 ・結果共有による方向性の見直し及びプログラム作りのポイントについて意見交換 ・具体案の洗い出し ・10月分活動記録シートの書き方について再広報 ・本日の振り返り
【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】					
<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイクは中止:授業が始まる前にメンバーが自主的に集まってディスカッションしており、授業開始に当たってのウォーミングアップが不要だったため。 ・この時間のゴールセッティング ・計画と実績とのチェック ・中間報告までの計画の見直し ・課題解決のためのアイデア出し ・この時間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:私と学園祭について) ・イベントにてアンケートを取る日程の確定 ・アンケートの内容を考える ・フラワーアレンジメント、西陣織ブーケの市場分析 <ul style="list-style-type: none"> － 他社比較 － 市場の性格 － 自社の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(自分を動物に例えると…その理由) ・アンケート集計 ・集計結果の共有 ・結果共有による方向性の見直し及びプログラム作りのポイントについて意見交換 ・具体案の洗い出し ・10月分活動記録シートの書き方について再広報 ・本日の振り返り 					
月日：11月6日(木) 時限：1 形態：クラス別 場所：5号館各演習室	<p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】</th> <th style="width: 33%;">【PB 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】</th> <th style="width: 33%;">【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(この1週間で楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・計画と実績とのチェック ・中間報告までの計画の見直し ・課題解決のためのアイデア出し ・この時間の振り返り </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:この時間の目標と近況報告について) ・ブーケとフラワーアレンジメント教材についてのアンケート内容の確認 ・各自で市場調査アイデアを書いてきた紙をグループ分けする → KJ法 ・中間報告のパワーポイントをどう作成していくかを考える </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(昨日の親睦会で楽しかったこと・気づいたこと) → ベネッセクラスは11/5に親睦会を開催しました ・使えるワークの選定のための実験(TWI) ・シラバス作成時、授業を前半・中間・後半で分ける内容構成 ・このプロジェクトを成功させる上で現在PBLに対する不満・疑問について意見交換 ・今後のスケジュール、メンバーのスケジュール調整について ・12/6「学生支援 GP」共同フォーラム出席者の選定を考えてくる </td> </tr> </tbody> </table>	【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】	【PB 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(この1週間で楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・計画と実績とのチェック ・中間報告までの計画の見直し ・課題解決のためのアイデア出し ・この時間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:この時間の目標と近況報告について) ・ブーケとフラワーアレンジメント教材についてのアンケート内容の確認 ・各自で市場調査アイデアを書いてきた紙をグループ分けする → KJ法 ・中間報告のパワーポイントをどう作成していくかを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(昨日の親睦会で楽しかったこと・気づいたこと) → ベネッセクラスは11/5に親睦会を開催しました ・使えるワークの選定のための実験(TWI) ・シラバス作成時、授業を前半・中間・後半で分ける内容構成 ・このプロジェクトを成功させる上で現在PBLに対する不満・疑問について意見交換 ・今後のスケジュール、メンバーのスケジュール調整について ・12/6「学生支援 GP」共同フォーラム出席者の選定を考えてくる
【PBL 実践ⅡⅢ IBM クラス】	【PB 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】					
<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(この1週間で楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・計画と実績とのチェック ・中間報告までの計画の見直し ・課題解決のためのアイデア出し ・この時間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(1分間プレゼン/テーマ:この時間の目標と近況報告について) ・ブーケとフラワーアレンジメント教材についてのアンケート内容の確認 ・各自で市場調査アイデアを書いてきた紙をグループ分けする → KJ法 ・中間報告のパワーポイントをどう作成していくかを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(昨日の親睦会で楽しかったこと・気づいたこと) → ベネッセクラスは11/5に親睦会を開催しました ・使えるワークの選定のための実験(TWI) ・シラバス作成時、授業を前半・中間・後半で分ける内容構成 ・このプロジェクトを成功させる上で現在PBLに対する不満・疑問について意見交換 ・今後のスケジュール、メンバーのスケジュール調整について ・12/6「学生支援 GP」共同フォーラム出席者の選定を考えてくる 					

授 業 等 内 容				
月日： 11月13日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1"> <tr> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・次の1週間の計画と実績との振り返り、修正 ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的な行動計画の策定 ・この時間の振り返り </td> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイク ・欠席・遅刻に対する対策について ・今後の流れの確認 ・それぞれが作成してきたアンケートのチェック ・中間発表用パワポのたたき台について意見交換 ・ゴールセッティングシート確認 </td> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 ・アイスブレイク (この1週間で1番心に残っていること) ・本日のゴールセッティングシート記入 ・先週からの宿題発表(2人ペア×4) 社会人基礎力を付けるための授業シラバス15回分の暫定版を考えてくる(ゲストスピーカーについて調査発表含む) ・来週11/20中間発表について(時間が不足しているため再度全員で集合のための調整) → 11/19に決定 ・本日の振り返り </td> </tr> </table>	【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・次の1週間の計画と実績との振り返り、修正 ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的な行動計画の策定 ・この時間の振り返り	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイク ・欠席・遅刻に対する対策について ・今後の流れの確認 ・それぞれが作成してきたアンケートのチェック ・中間発表用パワポのたたき台について意見交換 ・ゴールセッティングシート確認	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 ・アイスブレイク (この1週間で1番心に残っていること) ・本日のゴールセッティングシート記入 ・先週からの宿題発表(2人ペア×4) 社会人基礎力を付けるための授業シラバス15回分の暫定版を考えてくる(ゲストスピーカーについて調査発表含む) ・来週11/20中間発表について(時間が不足しているため再度全員で集合のための調整) → 11/19に決定 ・本日の振り返り
【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・次の1週間の計画と実績との振り返り、修正 ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的な行動計画の策定 ・この時間の振り返り	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイク ・欠席・遅刻に対する対策について ・今後の流れの確認 ・それぞれが作成してきたアンケートのチェック ・中間発表用パワポのたたき台について意見交換 ・ゴールセッティングシート確認	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 ・アイスブレイク (この1週間で1番心に残っていること) ・本日のゴールセッティングシート記入 ・先週からの宿題発表(2人ペア×4) 社会人基礎力を付けるための授業シラバス15回分の暫定版を考えてくる(ゲストスピーカーについて調査発表含む) ・来週11/20中間発表について(時間が不足しているため再度全員で集合のための調整) → 11/19に決定 ・本日の振り返り		
月日： 11月20日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p>経済産業省近畿経済産業局 事業見学に来学</p> <p>10月23日から始まったチーム別授業も7回目を数える11月20日、近畿経済産業局関係者の方々から事業見学のため来学された。午前9時に授業開始、まず最初は、企業とは連携しないPBL実践Ⅰの授業を参観、次いでベネッセクラスを参観された。当日のベネッセクラスは中間発表日であることから、企業側から担当者も出席されていた。ベネッセコーポレーションから与えられた課題『社会人基礎力を身につけるプログラム開発』についての取り組み状況を学生各自が発表した。この学生の発表に対して、企業担当者から様々なアドバイスをいただき、最終報告会へ向けて引き続き、取り組みが続けられることになる。その後は、日本 IBM クラス、小林工芸クラスの授業を参観いただいた。授業終了後は、近畿経済産業局関係者と本学の授業スタッフとの意見交換が行なわれた。</p> <p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1"> <tr> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・この1週間の振り返り、修正 ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的な行動・役割の策定 ・中間発表(次回)のプログラム確定 ・この時間の振り返り </td> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイクと本日のゴールセッティングの共有 ・11/16に小林社長からうかがったお話に関する感想の共有 ・各自が作成してきたアンケート内容のチェック ・経済産業省の方からの質問に対して答える ・11/26までに集まる日程の調整 ・本日の振り返り </td> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 中間報告会 ・ベネッセ三瀬さんと再会の挨拶・自己紹介 ・本日のゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイク(TWI) ・中間発表(各担当より) ・三瀬さんからのフィードバック ・本日の振り返り </td> </tr> </table>	【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・この1週間の振り返り、修正 ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的な行動・役割の策定 ・中間発表(次回)のプログラム確定 ・この時間の振り返り	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイクと本日のゴールセッティングの共有 ・11/16に小林社長からうかがったお話に関する感想の共有 ・各自が作成してきたアンケート内容のチェック ・経済産業省の方からの質問に対して答える ・11/26までに集まる日程の調整 ・本日の振り返り	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 中間報告会 ・ベネッセ三瀬さんと再会の挨拶・自己紹介 ・本日のゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイク(TWI) ・中間発表(各担当より) ・三瀬さんからのフィードバック ・本日の振り返り
【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この1週間の楽しかったこと) ・この時間のゴールセッティング ・この1週間の振り返り、修正 ・全体的な計画のもとでの次回までの具体的な行動・役割の策定 ・中間発表(次回)のプログラム確定 ・この時間の振り返り	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイクと本日のゴールセッティングの共有 ・11/16に小林社長からうかがったお話に関する感想の共有 ・各自が作成してきたアンケート内容のチェック ・経済産業省の方からの質問に対して答える ・11/26までに集まる日程の調整 ・本日の振り返り	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 中間報告会 ・ベネッセ三瀬さんと再会の挨拶・自己紹介 ・本日のゴールセッティングシート記入 ・アイスブレイク(TWI) ・中間発表(各担当より) ・三瀬さんからのフィードバック ・本日の振り返り		
月日： 11月27日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1"> <tr> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 中間報告会 本日は、日本 IBM のご担当者から遠路来学いただき、課題解決の中間発表を行った。この1時間については、すべて、学生が企画し、学生が進行した。真剣な、白熱した意見交換があり、最終報告に向けた有益なアドバイスをいただいた。 </td> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシートの記入 ・アイスブレイク (この1週間で楽しかったこと、本日の授業で得たいこと) ・1年生クラスの発表を聞く ・11/26の知財ビジネスマッチングでのアンケート回収結果と小林工芸ブースをお手伝いした感想の共有 ・今後の進め方について意見交換 ・中間報告のパワーポイント内容と役割分担について話し合う ・ゴールセッティングシートに振り返りの記入 </td> <td> 【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 ・本日のゴールセッティングシート記入 ・PBLⅠクラスより中間プレゼンテーション(1班・2班) ・アンケート記入 ・来週のベネッセ企業訪問に向けたミーティング ・最終報告に向けたゴール設定 ・来週までにすることのすり合わせ ・来週の集合日決定 ・本日の振り返り </td> </tr> </table>	【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 中間報告会 本日は、日本 IBM のご担当者から遠路来学いただき、課題解決の中間発表を行った。この1時間については、すべて、学生が企画し、学生が進行した。真剣な、白熱した意見交換があり、最終報告に向けた有益なアドバイスをいただいた。	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシートの記入 ・アイスブレイク (この1週間で楽しかったこと、本日の授業で得たいこと) ・1年生クラスの発表を聞く ・11/26の知財ビジネスマッチングでのアンケート回収結果と小林工芸ブースをお手伝いした感想の共有 ・今後の進め方について意見交換 ・中間報告のパワーポイント内容と役割分担について話し合う ・ゴールセッティングシートに振り返りの記入	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 ・本日のゴールセッティングシート記入 ・PBLⅠクラスより中間プレゼンテーション(1班・2班) ・アンケート記入 ・来週のベネッセ企業訪問に向けたミーティング ・最終報告に向けたゴール設定 ・来週までにすることのすり合わせ ・来週の集合日決定 ・本日の振り返り
【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】 中間報告会 本日は、日本 IBM のご担当者から遠路来学いただき、課題解決の中間発表を行った。この1時間については、すべて、学生が企画し、学生が進行した。真剣な、白熱した意見交換があり、最終報告に向けた有益なアドバイスをいただいた。	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 ・ゴールセッティングシートの記入 ・アイスブレイク (この1週間で楽しかったこと、本日の授業で得たいこと) ・1年生クラスの発表を聞く ・11/26の知財ビジネスマッチングでのアンケート回収結果と小林工芸ブースをお手伝いした感想の共有 ・今後の進め方について意見交換 ・中間報告のパワーポイント内容と役割分担について話し合う ・ゴールセッティングシートに振り返りの記入	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 ・本日のゴールセッティングシート記入 ・PBLⅠクラスより中間プレゼンテーション(1班・2班) ・アンケート記入 ・来週のベネッセ企業訪問に向けたミーティング ・最終報告に向けたゴール設定 ・来週までにすることのすり合わせ ・来週の集合日決定 ・本日の振り返り		

授 業 等 内 容				
月日： 12月4日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p>社会人基礎力育成・評価システム構築事業の視察・インタビュー 実施</p> <p>経済産業省から「社会人基礎力育成・評価に関する実践事例の調査研究」の委託を受けた L 株式会社様が、視察・インタビューのため来学された。当日は、企業とは連携しない PBL 実践 I の授業を視察、次いでベネッセクラス、日本 IBM クラス、そして当日が中間発表日である小林工芸クラスの授業を視察いただいた。授業終了後は、本学の授業担当スタッフに対し、社会人基礎力育成カリキュラムの具体的な取り組み内容や評価への取り組み等について、インタビューが実施された。授業担当スタッフからは、中間評価時点までの活動状況や社会人基礎力育成・評価の取り組みを学内に広げるための活動状況についての現況と課題が述べられた。最後は受講学生への聞き取りが行われ視察を終了した。</p> <p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>【PBL 実践 II III IBM クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この 1 週間の楽しかったこと) ・この時間のゴール設定 ・前回実施した中間発表の振り返りと今後の計画の見直し ・次回までの具体的行動・役割の策定 ・この時間の振り返り (授業中の約 10 分間程、L 株式会社の実地調査を受ける。) </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>【PBL 実践 II III 小林工芸クラス】</p> <p>中間報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセティングシート記入 ・連絡事項共有 ・小林社長に対して中間報告プレゼン ・学生のまとめた商品開発提案について小林社長から感想をうかがう ・L 株式会社の方が見学に来られる (ここから授業の終了まで) ・小林社長に学生からの質問に対してお答えいただく <ul style="list-style-type: none"> ①ブランド化とは具体的にどういうことか ②今後の会社のビジョン・方向性 ・小林社長から今後のアンケートの取り方についてご要望をうかがう ・アンケートを取る際のパンフレットをいただく ・今後の進め方を確認する ・ゴールセティングシートの共有 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>【PBL 実践 II III ベネッセクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク (昨日の企業訪問の感想) ・本日のゴールセティングシート記入 ・企業からのアドバイスを頂き、今後の授業、ゴール、最終発表ゴールに対して全員の目線合わせ ・本日の振り返り </td> </tr> </table>	<p>【PBL 実践 II III IBM クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この 1 週間の楽しかったこと) ・この時間のゴール設定 ・前回実施した中間発表の振り返りと今後の計画の見直し ・次回までの具体的行動・役割の策定 ・この時間の振り返り (授業中の約 10 分間程、L 株式会社の実地調査を受ける。) 	<p>【PBL 実践 II III 小林工芸クラス】</p> <p>中間報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセティングシート記入 ・連絡事項共有 ・小林社長に対して中間報告プレゼン ・学生のまとめた商品開発提案について小林社長から感想をうかがう ・L 株式会社の方が見学に来られる (ここから授業の終了まで) ・小林社長に学生からの質問に対してお答えいただく <ul style="list-style-type: none"> ①ブランド化とは具体的にどういうことか ②今後の会社のビジョン・方向性 ・小林社長から今後のアンケートの取り方についてご要望をうかがう ・アンケートを取る際のパンフレットをいただく ・今後の進め方を確認する ・ゴールセティングシートの共有 	<p>【PBL 実践 II III ベネッセクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク (昨日の企業訪問の感想) ・本日のゴールセティングシート記入 ・企業からのアドバイスを頂き、今後の授業、ゴール、最終発表ゴールに対して全員の目線合わせ ・本日の振り返り
<p>【PBL 実践 II III IBM クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この 1 週間の楽しかったこと) ・この時間のゴール設定 ・前回実施した中間発表の振り返りと今後の計画の見直し ・次回までの具体的行動・役割の策定 ・この時間の振り返り (授業中の約 10 分間程、L 株式会社の実地調査を受ける。) 	<p>【PBL 実践 II III 小林工芸クラス】</p> <p>中間報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセティングシート記入 ・連絡事項共有 ・小林社長に対して中間報告プレゼン ・学生のまとめた商品開発提案について小林社長から感想をうかがう ・L 株式会社の方が見学に来られる (ここから授業の終了まで) ・小林社長に学生からの質問に対してお答えいただく <ul style="list-style-type: none"> ①ブランド化とは具体的にどういうことか ②今後の会社のビジョン・方向性 ・小林社長から今後のアンケートの取り方についてご要望をうかがう ・アンケートを取る際のパンフレットをいただく ・今後の進め方を確認する ・ゴールセティングシートの共有 	<p>【PBL 実践 II III ベネッセクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク (昨日の企業訪問の感想) ・本日のゴールセティングシート記入 ・企業からのアドバイスを頂き、今後の授業、ゴール、最終発表ゴールに対して全員の目線合わせ ・本日の振り返り 		
月日： 12月11日(木) 時限： 1 形態： 全体 場所： 5229 演習室	<p>プレゼンテーション講習会の実施</p> <p>全体授業(プレゼンテーション講習)学内における「PBL最終報告会」を 1 ヶ月後に控えた 12 月 11 日、株式会社 KS から講師をお招きして、4 クラス合同のプレゼンテーション講習会を実施した。「PBL最終報告会」での各クラスからの発表では、自らのチームが、どのような活動に取り組み、どのような行動を通じて、どのような成果を上げ、その過程でどのようなことができるようになったか、について発表を行う予定であるが、これらの内容をより効果的に伝えるためには、資料作成の方法や話し方の技術もプレゼンテーションの大きなポイントになることはいうまでもない。このことから、プレゼンテーション成功のポイントを、好感度を高める印象づくり、プレゼンテーションにおける話し方・言葉づかい、論理的な考え方と伝え方、の各項目に分けて解説いただいたうえで、実地指導を受けた。プレゼンテーションを行う機会は、大学卒業後の進路を問わず多くあり、大学在学中にプレゼンテーション能力を養っておくことは非常に有意義であることから学生は熱心に聴講していた。</p>			
月日： 12月18日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p>第三者評価委員・普及推進委員による授業参観の実施</p> <p>第三者評価委員・普及推進委員から、夏目孝吉氏(文化放送キャリアパートナーズ)と西村善和氏(京都経営者協会)が来学、各クラスの授業を参観された。授業終了後は、夏目氏、西村氏両名と、本学 PBL 授業担当教員の意見交換会が行なわれ、各クラスの担当教員からは、これまでの授業での取り組みと報告会にむけての目標について説明があった。夏目氏、西村氏からは、社会人インタビューやチーム運営、成果の記録、またテーマ設定や学生の成長などについてアドバイスがあった。ヘッド教員の後藤経営学部教授からは、社会人基礎力の学内の普及活動として、12 月 16 日にシラバス調査分析結果報告会を開催したこと、また、21 年度には、京都商工会議所と共催し、社会人基礎力を育成する新入社員研修プログラムを実施予定であることが報告され、社会人基礎力の普及推進活動についての本学の取り組みが説明された。最後に、1 月 15 日に実施する最終報告会と 2 月 7 日キャンパスプラザで開催を予定している「PBL 教育の成果報告会&今後の可能性」についての概要説明が行なわれた後、意見交換会を終了した。</p> <p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>【PBL 実践 II III IBM クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この 1 週間の楽しかったこと) ・この時間のゴール設定 ・「基礎力グランプリ 2008」を観る ・最終報告までの計画見直し ・この時間の振り返り (この間 10 分間ほど、本学の取り組みの第三者評価委員会・社会人基礎力普及推進委員会メンバー 2 名の参観を受け、有益な質問やアドバイスを受けた。) </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>【PBL 実践 II III 小林工芸クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(ゴールセティングの発表) ・12/16 の企業訪問で小林社長にうかがった話の振り返り(フラワーパレットの体験について、アンケート内容について、ブランドについて、最終ゴールについて) ・小林社長から届いたアンケート(案の共有) ・これから最終報告までのタイムラインの決定 ・文化放送プレートの夏目さんの授業参観(夏目さんとの質疑応答) ・今後のミーティングのスケジュール調整 ・ゴールセティングの確認 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>【PBL 実践 II III ベネッセクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日分ゴールセティングシート作成 ・学内アンケートの完成版作成 ・最終報告会のプレゼンテーション内容報告 ・今後のスケジュール調整について </td> </tr> </table>	<p>【PBL 実践 II III IBM クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この 1 週間の楽しかったこと) ・この時間のゴール設定 ・「基礎力グランプリ 2008」を観る ・最終報告までの計画見直し ・この時間の振り返り (この間 10 分間ほど、本学の取り組みの第三者評価委員会・社会人基礎力普及推進委員会メンバー 2 名の参観を受け、有益な質問やアドバイスを受けた。) 	<p>【PBL 実践 II III 小林工芸クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(ゴールセティングの発表) ・12/16 の企業訪問で小林社長にうかがった話の振り返り(フラワーパレットの体験について、アンケート内容について、ブランドについて、最終ゴールについて) ・小林社長から届いたアンケート(案の共有) ・これから最終報告までのタイムラインの決定 ・文化放送プレートの夏目さんの授業参観(夏目さんとの質疑応答) ・今後のミーティングのスケジュール調整 ・ゴールセティングの確認 	<p>【PBL 実践 II III ベネッセクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日分ゴールセティングシート作成 ・学内アンケートの完成版作成 ・最終報告会のプレゼンテーション内容報告 ・今後のスケジュール調整について
<p>【PBL 実践 II III IBM クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク (この 1 週間の楽しかったこと) ・この時間のゴール設定 ・「基礎力グランプリ 2008」を観る ・最終報告までの計画見直し ・この時間の振り返り (この間 10 分間ほど、本学の取り組みの第三者評価委員会・社会人基礎力普及推進委員会メンバー 2 名の参観を受け、有益な質問やアドバイスを受けた。) 	<p>【PBL 実践 II III 小林工芸クラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク(ゴールセティングの発表) ・12/16 の企業訪問で小林社長にうかがった話の振り返り(フラワーパレットの体験について、アンケート内容について、ブランドについて、最終ゴールについて) ・小林社長から届いたアンケート(案の共有) ・これから最終報告までのタイムラインの決定 ・文化放送プレートの夏目さんの授業参観(夏目さんとの質疑応答) ・今後のミーティングのスケジュール調整 ・ゴールセティングの確認 	<p>【PBL 実践 II III ベネッセクラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日分ゴールセティングシート作成 ・学内アンケートの完成版作成 ・最終報告会のプレゼンテーション内容報告 ・今後のスケジュール調整について 		

授 業 等 内 容							
月日： 1月8日(木) 時限： 1 形態： クラス別 場所： 5号館各演習室	<p style="text-align: center;">クラス別授業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】</th> <th>【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】</th> <th>【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク(正月休み中にあったワクワク体験) ・この時間の目標設定 ・最終報告のリハーサル ・この時間の振り返り </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセッティング(年末年始で楽しかったこと、本日のゴール) ・最終プレゼンの評価基準について ・年末年始のアンケートの集計 ・パワーポイントのまとめ方について ・まとめ </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセッティングシートの記入 ・アイスブレイク(どんなお正月を過ごしたか) ・最終報告会に向けた資料作成 ・この授業内でストレスコントロール ・授業の具体的な進め方の確定 ・まとめ </td> </tr> </tbody> </table>	【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク(正月休み中にあったワクワク体験) ・この時間の目標設定 ・最終報告のリハーサル ・この時間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセッティング(年末年始で楽しかったこと、本日のゴール) ・最終プレゼンの評価基準について ・年末年始のアンケートの集計 ・パワーポイントのまとめ方について ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセッティングシートの記入 ・アイスブレイク(どんなお正月を過ごしたか) ・最終報告会に向けた資料作成 ・この授業内でストレスコントロール ・授業の具体的な進め方の確定 ・まとめ
【PBL 実践ⅡⅢ IBMクラス】	【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】	【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】					
<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴訓練を兼ねたアイスブレイク(正月休み中にあったワクワク体験) ・この時間の目標設定 ・最終報告のリハーサル ・この時間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセッティング(年末年始で楽しかったこと、本日のゴール) ・最終プレゼンの評価基準について ・年末年始のアンケートの集計 ・パワーポイントのまとめ方について ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールセッティングシートの記入 ・アイスブレイク(どんなお正月を過ごしたか) ・最終報告会に向けた資料作成 ・この授業内でストレスコントロール ・授業の具体的な進め方の確定 ・まとめ 					
月日： 1月15日(木) 時限： 1 形態： 全体 場所： 5229 演習室	<p>PBL 実践最終報告会の開催</p> <p>平成20年度経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」のモデル大学として採択された「二段階方式実践的PBL型教育」は、昨年10月9日の適性検査を皮切りに、マインドマップ研修や企業からの課題説明、プレゼン講習、フィールドワーク、中間報告会及びチーム別授業を積み重ね、平成21年1月15日(木)PBL最終報告会を開催した。</p> <p>PBL最終報告会では、各チームから「どのような活動に取り組み、どのように成長できたか」についての発表(プレゼンテーション)を行い、そして、審査委員から、学生たちの社会人基礎力の成長や知識の深まり等を審査いただいた。審査委員には、PBL教育事業の推進委員である就職情報研究所 夏目様、京都商工会議所 佐藤様、京都経営者協会 西村様の3名をお願いした。</p> <p>各チームからの発表時間、内容及び審査基準は、経済産業省主催の「社会人基礎力育成グランプリ」の内容に準拠して実施。1年次生1クラス、企業からの提供課題ごとに分れた3クラスの合計4クラスが、どのような活動に取り組み、どのような行動を通じて、その過程でどのようなことができるようになったか、をパワーポイントを使って発表した。</p> <p>各チームからの発表後、審査委員が評価項目ごとに7点満点で採点、合計点が最も高かった小林工芸クラスが“優秀賞”に、次いで高かった日本IBMクラスが“準優秀賞”に選ばれ、審査委員長の夏目様から表彰された。</p> <p>また、“優秀賞”の小林工芸クラスと“準優秀賞”に選ばれた日本IBMクラスの2チームは、2月7日(土)キャンパスプラザ京都で開催される「PBL教育の成果報告会」に出場。さらに、“優秀賞”の小林工芸クラスが、2月10日東京で開催される「社会人基礎力育成グランプリ」(主催:経済産業省)へ出場することになった。</p> <p>なお、出場チーム(クラス)及び提供課題は次のとおりであった。</p> <p>【PBL 実践Ⅰ】 9名</p> <p>企業とは連携しない実践型学習を行った1年次生みのみのクラス。社会人に対するインタビュー(キャリアインタビュー)を通じて、社会人基礎力の涵養を目指すとともに、さまざまな職業や働き方を自らの目で確かめる。</p> <p>【PBL 実践ⅡⅢ 日本 IBM クラス】 5名</p> <p>日本アイビーエム株式会社からの提供課題 「5年後の大学生活はどのように変わっているべきで、それに対してIBMとしてどのような提案・サービスを提供すべきか？」</p> <p>【PBL 実践ⅡⅢ 小林工芸クラス】 6名</p> <p>小林工芸株式会社からの提供課題 「新商品をブランドにもっていくための戦略と実践」</p> <p>【PBL 実践ⅡⅢ ベネッセクラス】 8名</p> <p>株式会社ベネッセコーポレーションからの提供課題 「社会人基礎力」を身につけるプログラム開発」</p> <p>PBL最終報告会終了後は、第二回社会人基礎力推進全体会議を開催した。同会議は、本事業についての全体理解を深めるとともに、協力体制の推進を目指して開催するもので、課題提供企業関係者や普及推進委員の就職情報研究所 夏目様、京都商工会議所 佐藤様、京都経営者協会 西村様や本学のキャリア教育研究センタースタッフ関係者が出席した。会議では、今後の展開や課題等について意見交換を行い、相互理解を深めることができた。</p>						

4. 学内における学生の成果報告

授業最終日の1月15日には「PBL実践 最終報告会」を開催し、各クラス代表による20分間のプレゼンテーションが行われた。

当日は2月に東京で開催される「社会人基礎力育成グランプリ 2009～予選大会～」への出場チームの選考会も兼ねており、本番さながらの審査を交えた報告会となった。

同PBL実践最終報告会においてのプレゼン資料は次頁からのとおりである。

日本 IBM クラス

<企業からの提供課題>

「5年後の大学生活はどのように変わっているべきで、それに対してIBMとしてどのような提案・サービスを提供すべきか？」



未来へ続く発見！ ~ IBMとPBLを通して~

IBMグループ
阿世保・山本・青山・小西・野田

課題提供担当者 浅沼さん
担当教員 後藤先生



課題内容

- ・「5年後の大学生活はどのように変わっているべきで、」
- ・「それに対してIBMはどのようなご提案・サービスを提供すべきか？」

PBL活動当初

- ・PBLをすることの目的→社会人基礎力を身につけたい！！
- ↓
- ・IBMからの課題をこなすことで自然に身に付くのだろうと感じていた
- ↓
- ・だから、今の課題を解決しよう！！

しかし・・・



足踏み状態を打開！！

- ・授業外での召集！ → 学生生活の1つとしてのPBLをとらえよう
- 協働性のUP！
- ・各自、意見や企画内容をまとめ、ブレインストーミングを実施！
- 提案力、発見力のUP！

打開によって

- ・課題のアイデアの噴火！
- 学んだこと
- 個人の役割重視よりチーム全体
- 仲間意識を持つことが大切



そして中間報告！

- 学生電
- 試作アイデアに興味を持ってもらう

けれども...

案の練り直し

快適な学生生活ではなく

大学生の意識を変える何かを考えよう！

⇒方向性的一致

そして・・・

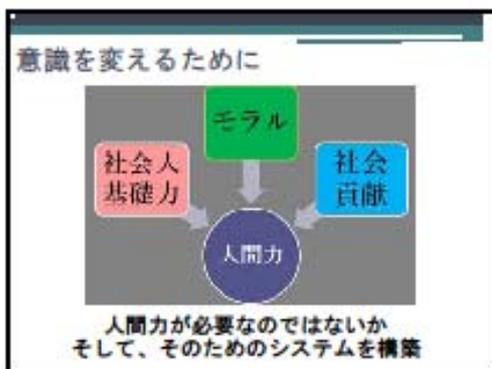
「自分たちの学んできたこと、日頃思うこと」で何か使えないものはないかと考える

学部で学んだこと

- CSR (企業の社会的責任)
- ⇒学生も社会貢献 Win-Winの関係

普段の生活で思うこと

- 歩きタバコ
- 授業中の私語
- ⇒モラルの低さ



中間報告のフィードバック

裏付けや調査の充実

↓

文献調査 アンケート実施

文献調査
 大学や教育に関する本や資料を調べる

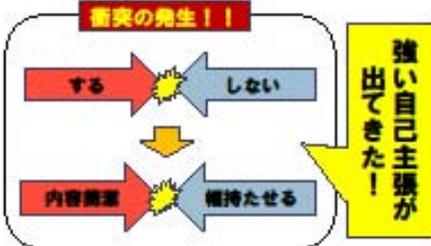
- ・「知識力と人間力の両方が大事」
- ・「なのに人間力が身につけていなくて、それを養う為の環境もない」



では、実際はどうだろう？

アンケート

衝突の発生！！



強い自己主張が出てきた！

いいものを作りた！！

みんなの**熱い想い**があったからこそこの衝突
熱い想いがみんなを1つにまとめていた

衝突を通しての発見



「本当の協調性」を理解

アンケートからわかったこと

- ・「人間力は身につけたいけど、今まで通りの大学の授業だけでも無理」
- ・「人間力は身につけたいと思うけど、それはクラブ・サークル活動やアルバイトのおかげ」

↓

多くの大学生が今の大学の授業では、「人間力」が身につかないと感じている

そこで新たな提案！

産民学合同の体験型授業

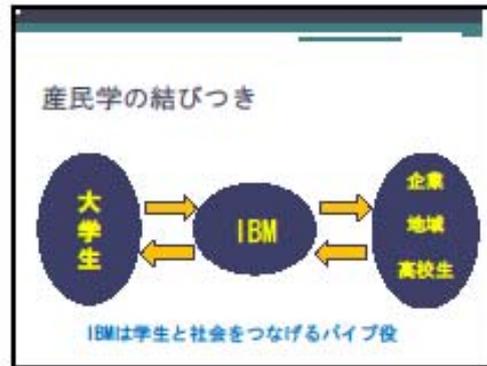
どんなものか？

しゃべり場

産官民学連携
体験学習

企業に社会的責任があるように
何かに貢献し人間力を養う

内容:
例として「地域活性化」を目指した交流による人間力育成



・五年後の大学生活

知識力 & 人間力

・IBMへの提案

地域との交流 & 学んだことの実践

産民学合同の体験型授業

誰の手ごたえも
ない

しゃべり場

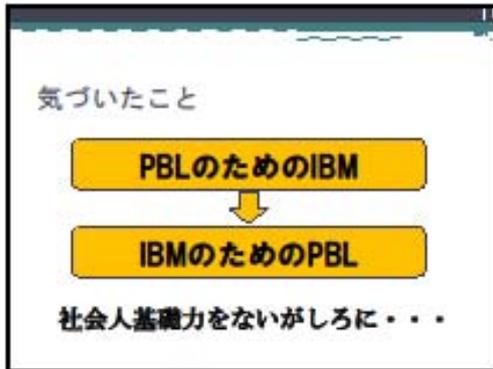
・・・しかし！！

後藤先生のお言葉

「なんの為の最終報告なの？」

「今まで君達は何を学んできたの？」

マインドマップ



新たな気づき

- 社会人基礎力は自然に身に付かない
- 自ら意識し行動した時に人間力は身に付くのではないか

だからこそ・・・

PBLから未来へ

- PBL

最後に…

ありがとうございました

終

小林工芸クラス

<企業からの提供課題>

「新商品をブランドにもっていくための
戦略と実践」



PBL 課題解決実践

～小林工芸株式会社から頂いた
課題について～

メンバー 広田、藤田、片岡
松田、森嶋、石丸

担当教員 中尾先生

We can change!!

京都市立大学

目次

- 1、会社紹介・課題
- 2、ブーケ・教材の課題解決の提案
- 3、課題解決のまとめ
- 4、チームとしてのchange!!
- 5、個人としてのchange!!
- 6、全体のまとめ

1、小林工芸の課題と紹介

新商品をブランドにするための戦略

1. 「店舗で作られたブーケホルダー」の商品戦略
2. 「誰でも簡単にフラワーアレンジメントが作られる教材」の商品開発

◆ブランドとは??

京都の伝統文化

花を楽しんでもらう

京はなごころも

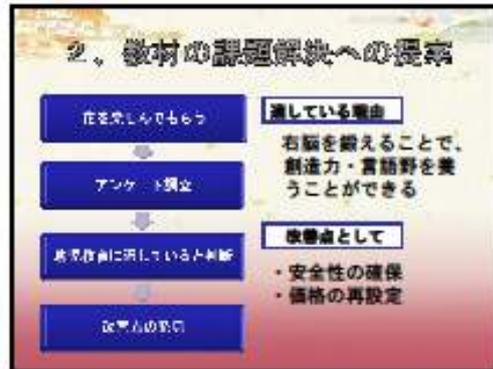
フラワーアレンジメント教材

**2、ブーケ・教材の
課題解決の提案**

3、課題解決のまとめ

2、ブーケの課題解決への提案

- 小冊子作成: アンケート結果の考慮
 - ・40代以上の方に...
 - ・インテリア、プレゼントとして
- アンケート結果を基に: 結果を基に
- ブランド化: ブランドイメージの再構築
- 社員教育: 社長の想いがソーシャルマーケティングと一致
- ソーシャル・マーケティング: ソーシャルマーケティングと一致

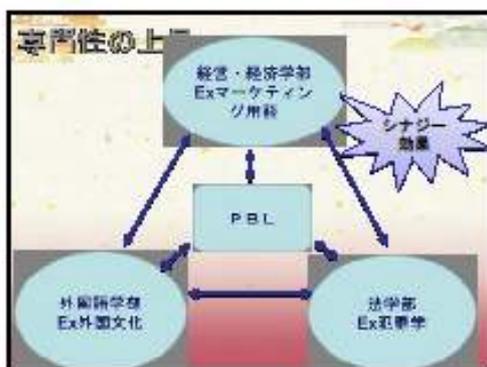
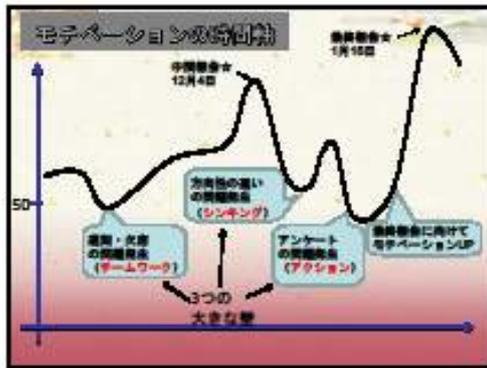


3. 課題解決のまとめ (4P+コア・コンピタンス)

	ブーケ	教材
製品 (Product)	バリエーション	安全性、大きさ
価格 (Price)	分売より、高値でも需要がある	1人1つ販売できる価格
流通 (Place)	贈答に適し、贈り物として	幼稚園、保育園、老人ホーム
プロモーション (Promotion)	店頭ポスター、HP掲載など会社に紹介	小冊子が付いている贈答など、産後贈答→HPで宣伝
コア・コンピタンス (Core Competence)	華やか、高級感	華やか



4. チームとしての change!!!

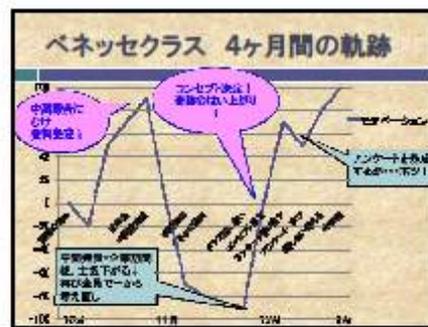


5. 個人としての
changell

ベネッセコーポレーションクラス

<企業からの提供課題>

「社会人基礎力」を身につけるプログラム開発



苦労したこと、困難

- コミュニケーションがうまくできなかった
- 意見が通じない
- 人の意見が聞き取れないけど、自分の意見も通じない
- 意思疎通がうまくいかなかった
- 計画がうまく進まなかった
- 長時間の打ち合わせがうまくいかなかった
- だして会議に参加できず
- 意見の共有が難しくかった
- 意思疎通に難いと感じた

つまり!! 相手の人からの要望に応えようという、思いがあった。
 それぞれの考えていることや思っていることが通じているのに、その意見を数回一つにまとめるように思っていた。
 そのため、中間発表ではいまいち準備は薄かった!!!!

あれ!? あせり 悔しい

ターニングポイント!!!!

企業訪問時に担当者の要望に応えようとするあまり自分たちで考えていないのでは?と感じた

自分たちの考えで動くべきだと気づいた!!

成長したこと

自分たちの考えで動くべきだと気づいた!!

自分たちの意見を統一する
 その意見のもと考え、計画を立てる
 その計画を基に自分たちで動く

工夫したこと取り組んだこと

- スケジュール調整し、必要な資料を事前に準備し、スムーズな議論の進め方を行った
- オンライングループディスカッション
 ・数人少ない場合でも、メンバーが議論の意見を打ち出すペースを調整した
- アンケート作成・配布・回収
 ・自分たちの意見だけでなく、他からの意見も学生の生の意見を取り入れる
- コンセプトの作り直し
 ・正しい順番から話し合いの順序を決めることで、関係性の整理がスムーズに進んだ

課題

「社会人基礎力を身につける
プログラム開発」

こんな授業にしたい！！！！

自分が主役の授業にしたい
終わりが無い授業にしたい
楽しい授業にしたい
誇れる授業にしたい
学んで体験する授業にしたい



授業全体の流れ

授業名	習得目標のスキル
第1講 ガイダンス	基礎力・基礎力・基礎力・基礎力
第2講 デジタルスキル	基礎力・基礎力・基礎力・基礎力
第3講 ストレスコントロールの基礎	ストレスコントロール・基礎力
第4講 ストレスコントロールの応用	基礎力・基礎力
第5講 コミュニケーションの基礎	基礎力・基礎力
第6講 コミュニケーションの応用	基礎力・基礎力
第7講 デジタルスキルと応用	基礎力・基礎力・基礎力
第8講 卒業	基礎力・基礎力
第9講 PBL (Problem Based Learning)	全てのスキルを習得
第10講 発表	
第11講 振り返り	

コンセプト

授業で

実践
考え方を学ぶ
「コミュニケーション力」
↓

学生が

楽しませる
自信をつけさせる
今後に活かせる

1. ガイダンス

授業の流れ

- 社会人基礎力の基礎(1時間)
- ↓
- 社会力の習得
- ↓
- 社会人基礎力の応用(1時間)
- ↓
- コミュニケーションの基礎(1時間)
- ↓
- 実践(1時間)

目的

- ・学生に興味を持ってもらう
- ・興味を引き出す
- ・体験してもらう
- ・社会人基礎力への理解

身に付けてもらうこと

★まずは、前に踏み出す覚悟！！

2. ディスカッション

授業の流れ

- 自己紹介(10分)
- ↓
- グループ
- ↓
- グループディスカッション
- ↓
- 発表
- ↓
- 発表者に対するフィードバック
- ↓
- 振り返り
- ↓
- 振り返りのまとめ

目的

- ・自分の現在の力を知ってもらう
- ・人に自分の考えを「伝える」練習を知ってもらう
- ・人の意見を「聴く」練習を知ってもらう

身に付けてもらうこと

- ★他人の意見を受け入れながら、人に話さない！！(自分の考えを持つ)
- ★いつでも自分の意見を言える
- ★客観的な視点を持つ



3、ストレスコントロールの講義1

授業の流れ

- 1. 講義
- 2. マインドマップ
- 3. APM (アプレックス) の活用
- 4. 小冊子
- 5. アプレックスワークシート

目的

- ・ストレスへの対処
- ・自分のストレスを知る
- ・自分の対処法を確立する
- ・ストレスに負けない人間になる

書に付けてもらうこと

★自分のストレスの原因を突き止める



4、ストレスコントロールの講義2

授業の流れ

- 1. 講義
- 2. マインドマップ
- 3. APM (アプレックス) の活用
- 4. 小冊子
- 5. アプレックスワークシート
- 6. 小冊子
- 7. APM (アプレックス) の活用

目的

- ・ストレスへの対処
- ・自分のストレスを知る
- ・自分の対処法を確立する
- ・ストレスに負けない人間になる

書に付けてもらうこと

★自分自身のストレス対処の仕方を探る



5、ロジカルシンキング

授業の流れ

- 1. マインドマップ
- 2. 小冊子
- 3. 小冊子
- 4. 小冊子
- 5. アプレックスワークシート

目的

- ・論理的な思考方法を学ぶ
- ・資料やデータを整理すること
- ・人に自分の考えを伝えるための、納得させるための準備のワークを学ぶ

書に付けてもらうこと

★人に意見を言うとき(アピート、会議)に、準備のある話し方のできるようになる
★論理的に考えることによって、レポートや論文作成を円滑に進めることができる



6、コミュニケーション☆

授業の流れ

- 1. マインドマップ
- 2. 小冊子
- 3. 小冊子(他人の話を聞く)
- 4. 小冊子
- 5. 小冊子
- 6. アプレックスワークシート

目的

- ・人との話し方を体験
- ・コミュニケーションの必要性
- ・相手側の人とのイメージアップ
- ・人に話せる
- ・人とうまく付き合う方法を学ぶ

書に付けてもらうこと

★これから先、いろいろな人との関わりがもたれていくことが出来る。
★相手の気持ちも意識しあうことができるようになる
★自分の気持ちを伝えることができる



7、ディスカッション+ディベート

授業の流れ

- 1. プレゼンテーション、ディスカッション
- 2. ディベート
- 3. ディスカッションの準備
- 4. 小冊子
- 5. ディベートの準備
- 6. 小冊子
- 7. ディスカッションワークシート

目的

ディスカッション

- ・第二脳での自分を鍛えて成長を実感する
- ・もう一度話し合いの場を設けることで次の課題のPMに成長を促す

ディベート

- ・論理的に説明する練習ができる

書に付けてもらうこと

★他人の意見を受け入れながらも、他人に譲れない！(自分の考えを持つ)
★いつでも自分の意見を持ってもらえる
★客観的な視点を持つ
★相手の感情を察する練習

8、工作

授業の流れ

- 1. マインドマップ
- 2. クラフトワーク
- 3. 工作の準備
- 4. 工作の準備
- 5. 工作の準備
- 6. 小冊子
- 7. アプレックスワークシート

目的

- ・楽しみながら、人を知る
- ・理解することで、心を開く
- ・自分の個性や得意分野を知り、それを活かす
- ・それ以外の意見を押し、それを活かすための力

書に付けてもらうこと

★人とも/自分と比べていいところ、強さを知る
★人の意見を聞きつつ、自分の意見を述べる
★できる限り、他人に合わせるという向上心
★柔軟に考え、話し、気持ち

9～14、PBL(Problem Based Learning)

授業の流れ

- グループ分け
- アイスブレイク
- 課題発表
- グループで探検
- 発表
- 質疑

目的

- ・今まで学んだ社会人基礎力実践に実践
- ・自分達で考え課題問題を解決する経験

身に付けてもらうこと

- ★自分の考えを持つ
- ★人に聞かず自分たちで考えて進めるようになる
- ★今後習った時に参加できるようになる

15、まとめ

授業の流れ

- PBLグループで発表
- 発表
- 発表からのフィードバック
- 発表
- 発表

目的

- ・発表からのフィードバック
- ・発表
- ・発表
- ・発表

身に付けてもらうこと

- ★身に付けたことを今後に活かしていく
- ★発表の自分達らしく評価できるようにする

評価方法

3:3:2=他者評価(出席も):先生の評価:自分の評価:レポート

評価	評価の割合	評価の方法	評価の内容
他者評価	3	アクティビティグループでの評価	チームの人数、第一発見、2人ペア、3人ペア、アドボカシ(改善すべき点)
先生の評価	3	授業中の観察	各員の1.いいところ 2.改善すべき点
自分の評価	2	授業時の評価シート	自分の1.いいところ 2.改善すべき点
レポート	2	レポート内容	この授業でどんなことを学び身についたか、それを今後どう活かしていくか

また、この他に他者、生徒、自分の社会人基礎力についてアクション、シンキング、チームワークを基に5段階で点数化する。

～偉人の方の言葉～

「この授業は始まりであり
学生があとためていくものであるが、
決して完成することのない
未完成のものである。」

by:ベネディクトゥス・スピノーザ

学んだこと

PBL実践

授業が終わった時に学習が終わるのではなく
この授業はさらなる学習のきっかけに過ぎない。

これからは
自分たちで学んでいくことが
必要だと感じた。

この授業だけで社会人基礎力は身に付くものではない。
今まで学んだものを実践の出発点として実践しながら学んでいかなければならない。

ご来聴ありがとうございました

5. 社会人基礎力育成グランプリ2009～予選大会～への出場

上記学内最終報告会において“優秀賞”に選ばれた小林工芸クラスは、平成21年2月10日（火）、東京・錦糸町丸井ビル[サンライズホール]において開催された「社会人基礎力育成グランプリ2009～予選大会～」に出場した。

予選大会には全国から40大学の参加があり、うち16大学が優秀賞を獲得、さらに9大学が3月5日に開催される決勝大会へと歩を進めた。

京都産業大学の小林工芸チームは残念ながら決勝大会への進出を果たすことはできなかったものの、前日遅くまでプレゼンテーションの最終調整を行うなど精力的な取り組みを見せその力を出し切った。

小林工芸チームの取り組み概要は以下のとおり。

■テーマ	京都らしい和風ブーケとフラワーアレンジメント教材に対する販売戦略及び商品開発の提案
■課題	『新商品をブランドにもっていくための戦略と実践』
■活動内容	情報収集（会社訪問、百貨店での展示会参加） 市場調査（ビジネスマッチング・フェアと一般の方々へのアンケート） 販売戦略及び商品開発提案
■成果	ブーケ：中高年の女性向け販売戦略の提案・フラワーアレンジメント教材：子供向け教育教材やお年寄りの趣味素材としての商品開発の提案 社会人基礎力の向上：前に踏み出す力、チームワークで働く力が大きく向上

